

チャレンジセンターセミナーと中間報告会を開催しました

東海大学チャレンジセンターでは、2009年度の中間報告会を10月17日に湘南キャンパス8号館で開催しました。当日は、今年度に採択したチャレンジプロジェクト19団体と特別プロジェクト5団体(計24団体)の代表者らが上半期の活動内容と反省点、今後の予定などを発表。教職員や各プロジェクトの学生から「反省点を今後の活動にどう生かすか」「メンバー間の情報共有をどう促進するか」といった質問やアドバイスが寄せられました。

学生の発表に先立ち、チャレンジセンターの大塚滋所長(法学部教授)が「この半年間で各プロジェクトが積み上げてきた活動の成果を客観的に評価し、反省することがさらなる発展につながります。残り半年間の有意義な活動につながる報告を期待しています」とあいさつ。続いて「福祉」「ものづくり」「地域活性」「アート・学習支援」「農業・環境」のパートごとに各プロジェクトから発表がありました。

チャレンジセンターの採択プロジェクトは全国のキャンパスに広がっており、今回の報告会もプロジェクトの学生たちが在籍する9つのキャンパスをテレビ会議システムでつないで行いました。旭川と湘南の両キャンパスの学生が合同で参加している「TOKAI DESIGN PROJECT」では、代表の大川紘一さん(教養学部4年生)が、インターネットの通信ツールを活用してスケッチを見せ合うなど、両キャンパスのコミュニケーションを図ったことを報告。「キャンパスが離れていてもプロジェクトを連携して進められる証明ができた」と成果を強調し、旭川キャンパスのメンバーもテレビ会議システムで活動を紹介しました。

また当日は、学生運営スタッフ企画による第6回東海大学チャレンジセミナー「この街に残せるもの この街で得られること～What's 社会貢献～」も開催。神奈川県内を中心にリユース・リサイクルを通じて社会貢献活動を行っている郡司真弓氏(NPO法人WE21ジャパン理事長)を講師に招き、さまざまな立場の人々との交流や、相手の立場に立って考えることの重要性などをお話いただきました。チャレンジセンターの学生にとって関心の高い内容ということもあって、会場には約190名の参加者が集まり、社会貢献活動における市民セクターの役割や組織運営の方法などについての質問に郡司氏が自身の体験を通してアドバイスを語り、学生らは熱心に耳を傾けていました。

